

継続事業評価調書

【道路事業】

一般国道2号（和坂拡幅）

県土整備部

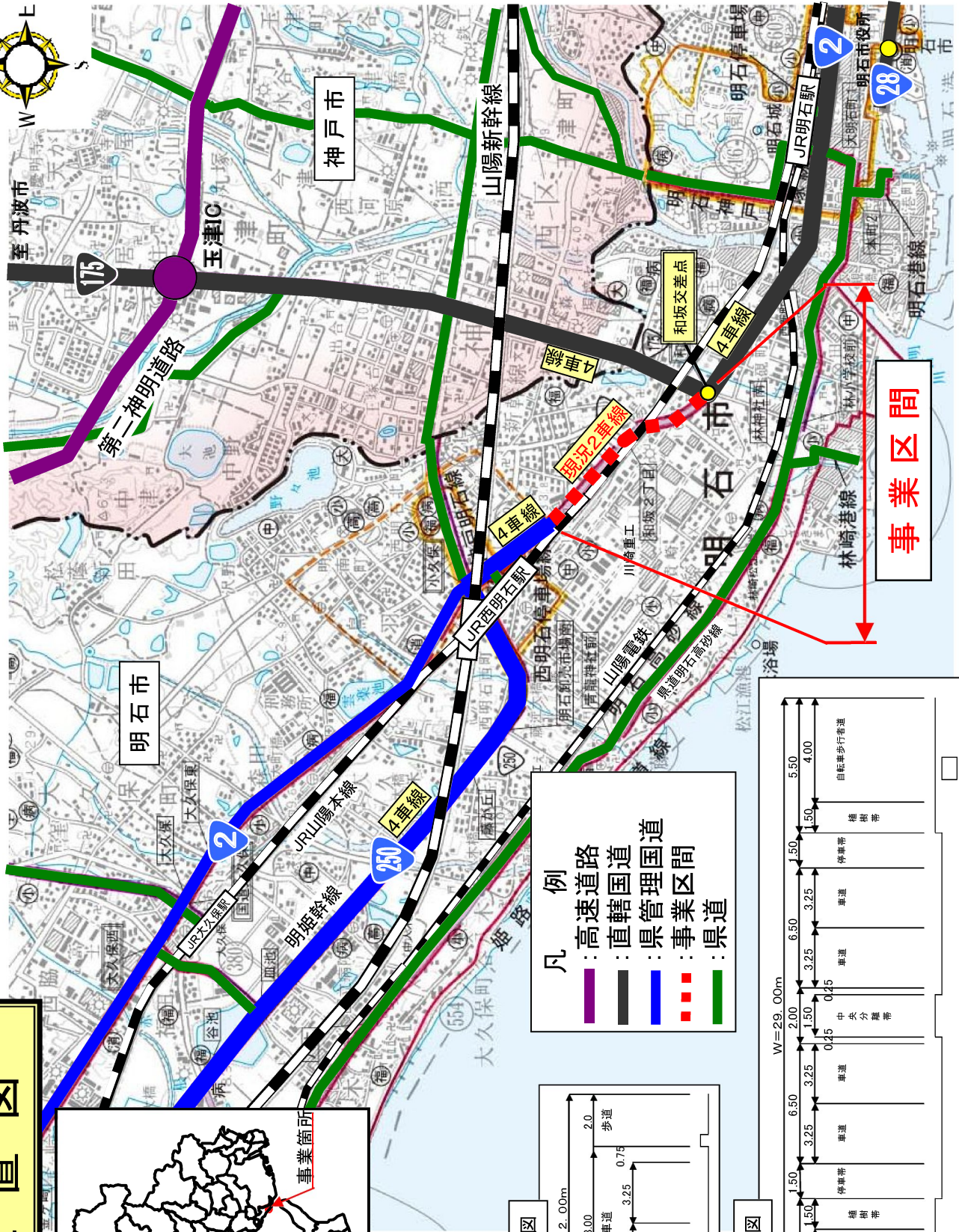
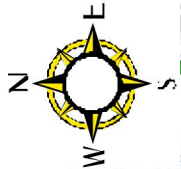
土木局 道路街路課

投資事業評価調書（継続：再評価）

部課室名	県土整備部土木局 道路街路課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路街路課長 田中 剛 (副課長兼国道係長 多田 欣也)	内線	4362 (4374)	
事業種目	道 路	新規評価年度	平成 15 年度		現計画	新規評価時
事業名	一般国道 2 号 和坂拡幅	事業採択年度	平成 16 年度	総事業費	105 億円	105 億円
		着工年度	平成 17 年度	内用地補償費	68 億円	68 億円
事業区間	明石市 ^{たていし} 立石一丁目 ^{おきか} ～和坂	完成予定年度	平成 30 年度	平成 23 年度		
		進捗率 (内用補進捗率)	32% (44%)	—		
		残事業費	71 億円	—		
事業の目的				事業内容【】：前回評価時点		
<p>○交通渋滞の解消</p> <ul style="list-style-type: none"> 国道 2 号は都市の骨格を形成し、第二神明道路や国道 175 号、250 号と共に他地域とのネットワークを形成する広域幹線道路である。しかしながら、事業区間の前後は 4 車線で整備されているものの、事業区間は 2 車線でボトルネックとなっているなど、慢性的な交通渋滞が発生しているため、4 車線化により渋滞の解消を図る。 <p>○社会・経済活動の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 本事業により円滑な自動車交通を確保し、播磨臨海部諸都市の社会・経済活動を支える。 <p>○歩行者・自転車の安全確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 本事業区間周辺には、西明石駅（JR 山陽本線、JR 新幹線）や小中学校、大規模マンション等があり、歩行者や自転車の通行が多いにも関わらず、歩道未整備区間が多いため、自転車歩行者道を整備し、歩行者等の安全な通行を確保する。 				<p>道路改築(現道拡幅) 1,300m 道路規格：第 4 種第 1 級 幅員 計画：4 車線 両側自歩道 4m 車道 13m(全幅 29m) 現況：2 車線 両側自歩道 2m 車道 6.5m(全幅 12m) 日計画交通量：33,000 台(H42 年予測) 【43,600 台(H32 年予測)】 現道交通量 (H22 センサ) 自動車：20,679 台/日 歩行者：758 人/12h 自転車：1,476 台/12h [負担割合：国 50%、県 50%]</p>		
事業を取り巻く 社会経済情勢 等の変化	<p>①国道 2 号と接続する国道 175 号では、平野拡幅(L=3.3km の内 2.0km)や神出バイパス(L=5.7km の内 4.0km)が供用するなど、周辺の幹線道路の整備が進んでいる。 ②山陽電鉄(西新町駅付近)連続立体交差事業も平成 28 年度完成予定で整備が進んでいる。 【新規評価時点からの事業計画・総事業費・工期の変更概要】 ①沿道企業の進入路設置箇所の調整、残地内の施設再配置計画や駐車場補償、隣接する代替地の確保等、用地交渉に時間を要したため、完了年度を平成 30 年度に変更する。</p>					
進捗状況	<p>【用地】①平成 17 年度より用地取得に着手し、今年度末の進捗率は 72%(面積ベース)を見込む。 ②平成 24 年度には最大規模の物件補償契約も完了し、早期の用地取得完了を目指す。 【工事】①H26 年度より JR 跨線橋等の工事に着手する予定。</p>					
評価視点	評価結果の説明					
審査会意見及び 対応方針 (H15 年度新規評価)	<p>【審査会意見】 新規着手妥当 事業実施に当たっては低騒音舗装を含め、より良い沿道環境づくりに努めること。 【対応方針】 車道部の低騒音舗装や、歩道部の透水性舗装等を実施し、沿道環境の向上を図る。</p>					
(1) 必要性	<p>①現道の交通量は 2 万台を超えており、依然として慢性的な交通渋滞（東行き渋滞長 920m）が発生していることから、早期に円滑な交通を確保する必要がある。 【渋滞交差点解消プログラム：和坂交差点（国道 2 号と国道 175 号の交差点）】 ②現道は緊急輸送道路(一次)に指定されていることから、災害に強い東西交通を確保する。</p>					
(2) 有効性・効率性 (執行環境状況)	<p>①費用便益比 B/C=3.2 (新規評価時 B/C=3.3)、B/C=5.1 (残事業) ②沿道事業者と代替地確保に向けた用地交換協定を締結し、用地取得に向け協議を進めているなど、用地取得は 72%(面積ベース)完了している。</p>					
(3) 環境適合性	<p>①慢性的な交通渋滞を解消することで、大気に与える影響を軽減できる。また、車道部の低騒音舗装、歩道部の透水性舗装、電線類地中化等により、沿道環境の向上を図る。</p>					
(4) 優先性	<p>①当該事業区間は 2 車線でボトルネック（前後 4 車線）となっていることから、慢性的な交通渋滞の解消には当該区間の 4 車線整備が必要である。</p>					
再評価の結果	継続	理由	<p>①事業の必要性は事業採択時と変わっておらず、大規模物件との契約や交渉も進捗していること、また、当該区間の早期供用を望む地域からの要望は依然として強いことなどから、継続して事業を実施する必要がある。</p>			

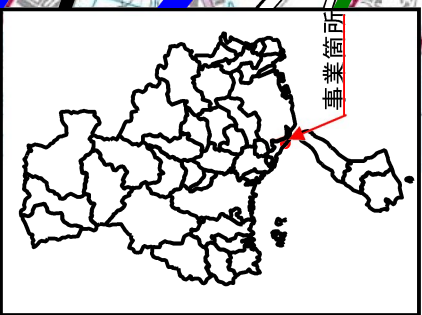
事業進捗状況概要図（継続：再評価）

事業名	道路事業	路線・河川名	国道 2 号 和坂拡幅				
<div data-bbox="236 943 488 1144" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>凡 例</p> <ul style="list-style-type: none"> — : 高速道路 — : 直轄国道 — : 県管理国道 - - - : 事業区間 — : 県道 </div> <div data-bbox="1126 1279 1417 1391" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>凡 例</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30px;">黄</td> <td>H16～25</td> </tr> <tr> <td>赤</td> <td>H26 以降</td> </tr> </table> </div>				黄	H16～25	赤	H26 以降
黄	H16～25						
赤	H26 以降						
		事業進捗状況・予定					
全体 (H16～H30)	<p>【事業費＝105 億円】 道路改良：1.3km（うち JR 跨線橋 47m） 用地取得：15,650 m²、物件補償 41 件</p>		整備効果				
事業採択～ H25 まで (H16～H25)	<p>【事業費＝約 34 億円】 [全体] 進捗率 32% 用地取得：11,190 m²、物件補償 27 件 進捗率 72% (面積ベース)</p>						
今後 5 年間 (予定) (H26～H30)	<p>【事業費＝約 71 億円】 道路改良：1.3km（うち JR 跨線橋 47m） 平成 26 年度より工事着手予定 用地取得：4,460m²、物件補償 14 件</p>		<p>4 車線化により慢性的な交通渋滞を解消し、交通の円滑化を図るとともに、自転車歩行者道の整備により、歩行者・自転車の安全な通行を確保する。</p>				

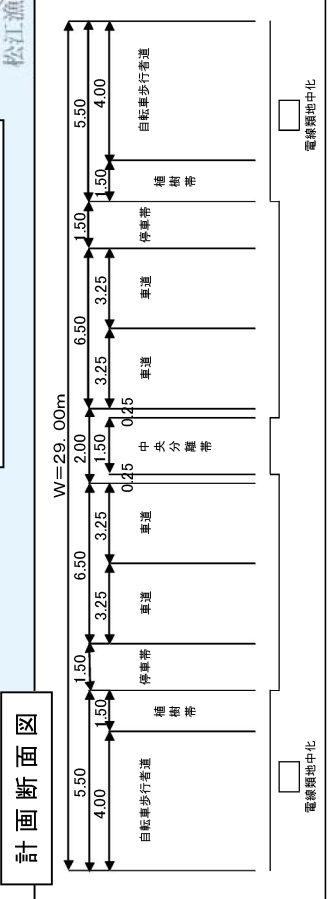
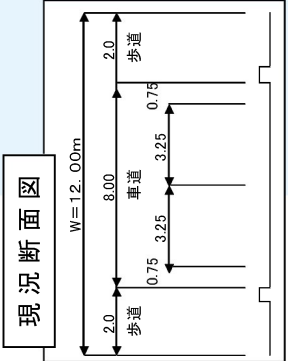


事業区間

位置図

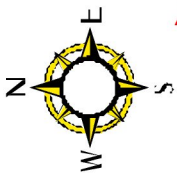


- 凡例**
- : 高速道路
 - : 直轄国道
 - : 県管理国道
 - - - : 事業区間
 - : 県道



進捗状況

事業区間



凡例

- : 契約済 (H25末見込み)
- : 未契約

用地進捗率: 72% (面積ベース)



渋滞状況

・当該区間の前後は4車線であるが、当該区間は2車線であり、ボトルネックとなっていることから慢性的な渋滞が発生している。
【和坂交差点：渋滞交差点解消プログラム】

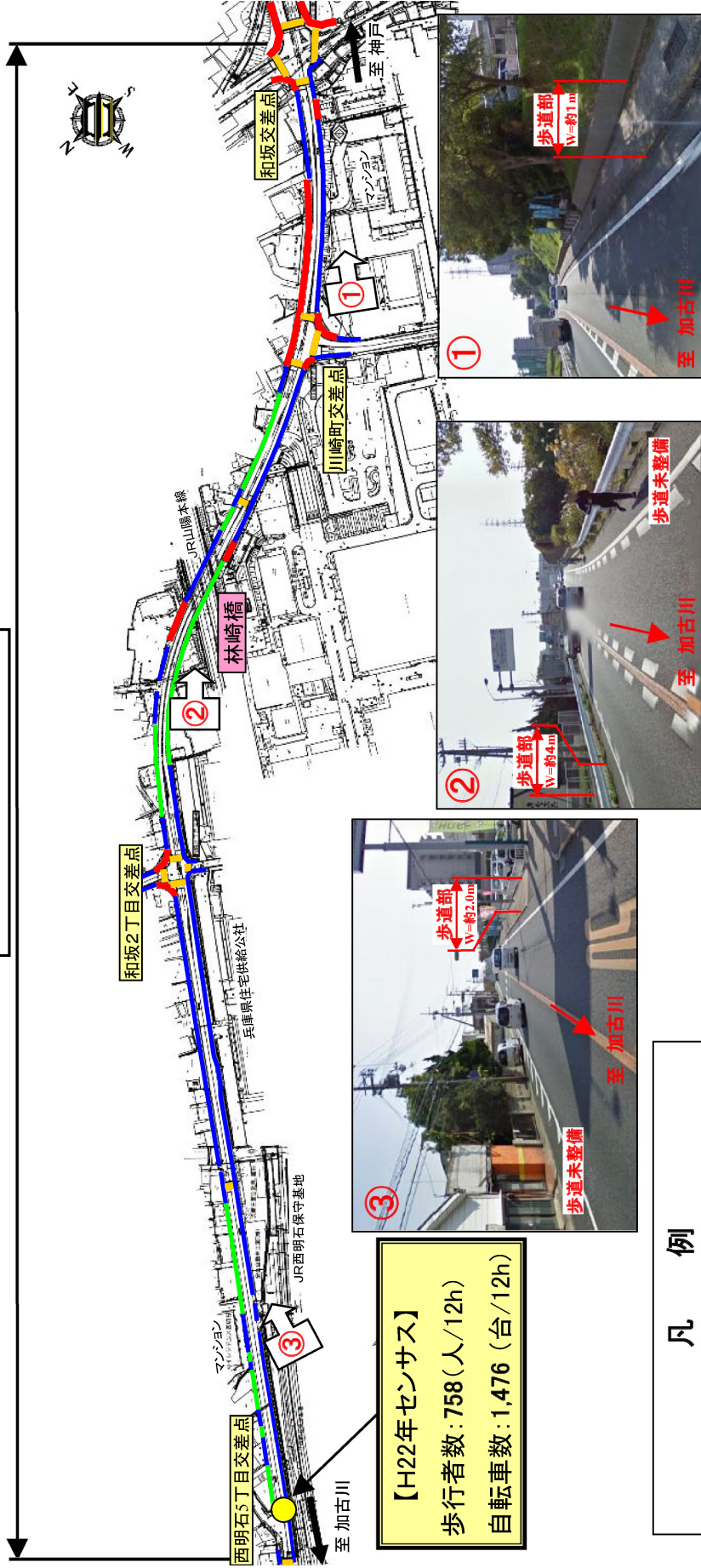


- 凡 例
- : 直轄国道
 - : 県管理国道
 - : 事業区間
 - : 県道

※ 旅行速度：H22センサス値
※ 渋滞調査：H20年2月6日(水)

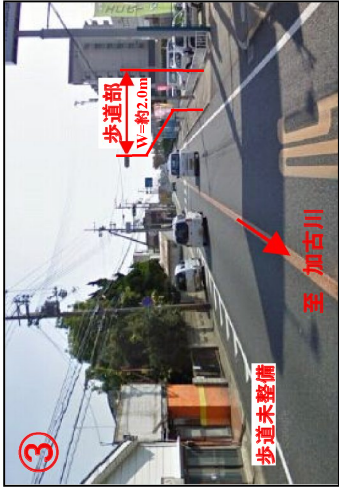
歩道整備状況

事業区間



【H22年センサス】
 歩行者数：758（人/12h）
 自転車数：1,476（台/12h）

- 凡 例
- 歩道あり (W=4.0m以上)
 - 歩道あり (W=4.0m未満)
 - 歩道なし
 - 横断歩道

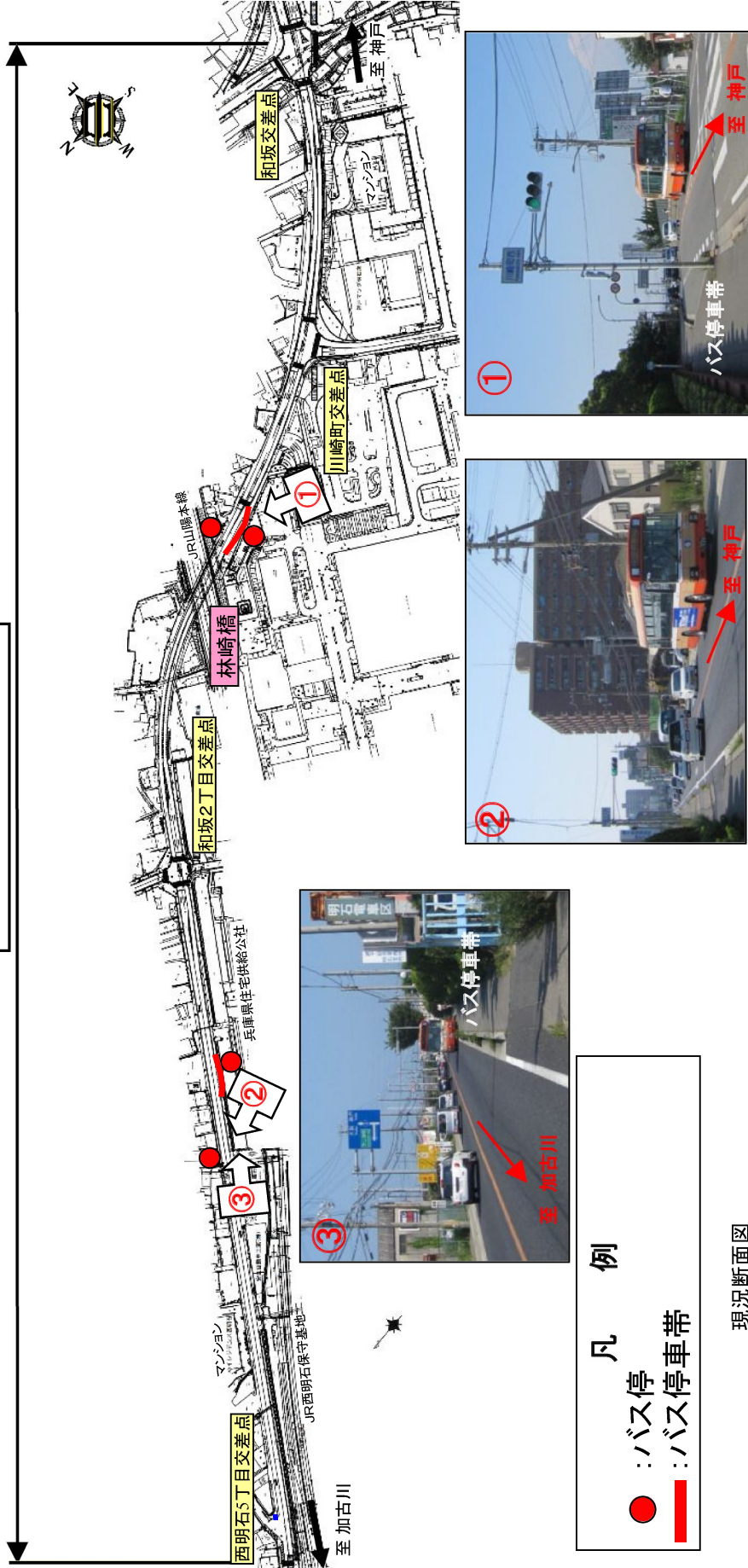


- ・歩道未整備区間、歩道幅員狭小区間が多く、歩行者の安全性が確保されていない。【歩道整備率(W≧4.0※：約13%)】
- ・歩道未整備区間を通行する歩行者、自転車が多数見られ、交通事故発生危険度が高い。

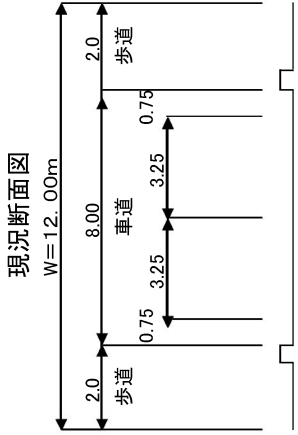
※ 計画歩道幅員W=4.0m

バス停車帯整備状況

事業区間



- 凡例
- : バス停
 - : バス停車帯



・バス停車帯がほとんど整備されておらず、バス乗降時に交通流の阻害要因となっている。

1 実施工程表

工種	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
設計・調査 (関係機関協議)	■	■	■												
用地補償		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
橋梁工事			■	■	■	■	■	■					■	■	■
道路改良工事			■	■	■	■	■	■					■	■	■

2 事業効果について

(1) 費用対効果

① 便益(B)の項目

■ : 当初計画
■ : 実施・計画

事業	B(便益)	算出方法
道路	① 走行時間短縮便益 目的地までにかかる時間が短くなることによる便益	整備無しの走行時間費用－整備有りの走行時間費用 走行時間費用: $\Sigma(\text{交通量} \times \text{走行時間}) \times \text{時間価値原単位} \times 365 \text{日}$
	② 走行経費減少便益 走行速度の向上や走行距離の短縮により、燃料費などが節減される便益	整備無しの走行経費－整備有りの走行経費 走行経費: $\Sigma(\text{交通量} \times \text{距離}) \times \text{走行経費原単位} \times 365 \text{日}$
	③ 交通事故減少便益 中央分離帯の設置や通過する主要交差点数の減少により、交通事故が減少する便益	整備無しの事故損失額－整備有りの事故損失額 事故損失額: $\Sigma[\text{交通量} \times \text{距離} \times \text{交差点以外の事故損失原単位} + \text{交通量} \times \text{主要交差点数} \times \text{交差点部事故損失原単位}]$

② 費用便益比(B/C) 算出根拠

事業	事業名	B(便益)		代表的な効果	C(費用)(百万円)			B/C	
		便益額(百万円)			総費用	事業費	維持管理費		
道路	一般国道 2号 和坂拡幅	全体事業費	① 走行時間短縮便益	29,656	時間短縮: 約4分→約2分 計画交通量: 33,000 台/日	9,597	9,434	163	3.2
			② 走行経費減少便益	1,734					
			③ 交通事故減少便益	-307					
			計	31,083					
	一般国道 2号 和坂拡幅	残事業費	① 走行時間短縮便益	29,656	同上	6,052	5,889	163	5.1
			② 走行経費減少便益	1,734					
			③ 交通事故減少便益	-307					
			計	31,083					

(2) 費用対効果に含まれない効果

- ① 西明石駅（JR新幹線・JR山陽本線）へのアクセス性向上
- ② 慢性的な交通渋滞解消による、沿道環境の改善

道路・街路事業の効果

対象事業：道路事業（国）2号和坂拡幅

（１）費用対効果

効果項目（費用対効果の便益内容）	
走行時間短縮	目的地までの時間短縮
走行経費減少	走行速度の向上や走行距離の短縮による、燃料費の節約等
交通事故減少	交通事故の減少による人的損害額、物的損害額及び渋滞による損失額等

（２）費用対効果に含まれない効果

○印は当該事業効果の主な項目

評価の視点	効果項目	該当する事業内容
①安全・安心の確保	災害時	○ 緊急医療・緊急物資の円滑な輸送の確保 （※緊急輸送道路の整備、防災拠点・災害拠点病院へのアクセス道路の整備）
		— 救助・救援活動の支援 （※災害時の通行不能や孤立集落の解消）
		○ 減災対策への取り組み （※二線堤道路、避難路・避難場所としての機能、延焼防止機能の確保）
	平時	○ 救急医療体制の支援
		○ 交通安全対策
②地域の活性化	○ 地域間交流の促進	
	○ 中心市街地の活性化	
	○ 地域産業の活性化	
	○ 観光支援	
	○ 地域プロジェクト等支援	
③円滑な交通体系の確保	○ 公共交通機関利用の促進 交通結節機能の向上	
④地域の環境改善	○ 沿道環境の改善 景観形成	
		○ 防災拠点である明石公園と明石市公設市場を結ぶ緊急輸送道路の整備
		— —
		○ 4車線拡幅による延焼防止機能の確保
		○ 明石医療センター（二次救急医療施設）へのアクセス時間の短縮
		○ 自転車歩行者道の整備による歩行者・自転車の安全性確保
		○ 慢性的な交通渋滞解消による、移動時間の短縮
		○ 慢性的な交通渋滞解消による、移動時間の短縮及び、自転車歩行者道の整備による沿道利活用の
		○ 慢性的な交通渋滞解消による、移動時間の短縮
		○ 明石公園（明石城）へのアクセス性向上による観光支援
		○ 明石市都市計画マスタープラン推進の支援
		○ JR西明石駅（JR山陽本線、JR新幹線）へのアクセス性向上及び、公共バスの利用促進
		○ 慢性的な交通渋滞解消による、沿道環境の改善

（３）地域からの要望状況等

要望状況等	①地元説明会は、連合自治会及び関係自治会に対し、年1回程度を定期的で開催し、事業進捗状況等を説明。 ②地元説明会では、渋滞や交通安全等の観点から、早期工事着手及び完了を望む声が非常に多い。
-------	---